

誰もが“つながる” ～新しい福祉のかたち～

多世代共生型施設のオープンにむけて ～Vol.3～

気持ちがつながる、笑顔がつながる、地域社会につながる

「誰もが“つながる”多世代共生型施設」をコンセプトに

新しい福祉のかたちを追求し、地域共生社会を実現します。



Web [はこちら](#)から

多世代共生型施設は、子どもから高齢者、また障がいの有無に関わらず、丸ごと、誰もがつながり、支え合うことで生きがいを持って安心して暮らすことができる地域社会をつくりだすものです。

今号では、その中の一つの機能である「福祉型児童発達支援センター」についてご紹介します。

「福祉型児童発達支援センター」とは

子どもの育ちを応援する場所です。心身の成長や発達に心配のあるお子さんを対象に、相談・訓練・通園を通して、発達の支援をおこないます。



めざす姿

- 児童発達支援事業、保育所等訪問事業を柱に、市子ども総合相談センター、市内保育所（園）、小中学校、特別支援学校及び放課後等デイサービス事業所等の関連機関と密接に連携し、障がいのある子ども及び家族を支援します。
- 桑名市を中心に近隣市町を含めた療育に関わる全ての関係者の中核・情報発信拠点として、多様なニーズを受け止めることができるよう、メニューの充実を図ります。
- 利用される一人ひとりと丁寧に向き合い、本人の希望が満たされるよう、「できない」でなく、「できるようにするにはどうするか」を第一に、併せて保護者の希望にも寄り添い支援します。
- 本施設に併設予定の相談支援事業所と、その後のケアを対象とした支援センター、生活介護、就労支援B型事業所と連動することで、親子とも安心して一生涯伴走型の相談支援を可能とします。
- 社協内の別拠点で展開している障害ヘルプサービスと連動することで、幼少期から親子ともに地域で暮らし続けることができるよう支援します。